

「医療連携と歯科技工士の役割」

(エピテーゼ・プロテーゼの制作と歯科技工士の職域拡大をめざして)

愛知医科大学病院 形成外科体表面補綴研究室
医科技工士 森下 裕司

頭頸部領域の先天的な欠損や変形、腫瘍切除や重い外傷などにより、顔面や頸部の目立つ部位に大きな欠損や変形を残すことがあります。また変形による顔貌の変化や機能障害ゆえに社会復帰が困難となることもあります。従来形成外科において各種の筋皮弁や遊離皮弁によって再建がなされてきましたが、広範囲な欠損や再発の危険性、年齢などの問題から人工補填物（プロテーゼ・エピテーゼ）による形態。機能回復も選択肢の一つとして考えられてきました。

エピテーゼやプロテーゼには製作者の明確な規程がなく、一部の歯科技工士や義肢装具士、あるいはメディカルアーティストがその時々要望に応じて製作してきました。

エピテーゼやプロテーゼの制作では患部の状態によって術後の瘢痕や、熱傷などによって皮膚の状態が安定していない等の状況に直面することもあります。そこで術前の状況から、診療他科の医師と歯科医師・口腔外科医師、歯科技工士、あるいはケースワーカー等との連携をもった医療チームとしてのアプローチが必要とされます。

エピテーゼを製作するには、正確な診断と機能や重量なども考慮にいたした設計が重要な要素となります。とくにエピテーゼの製作は患者と対面しながらの作業が必要であり、その製作過程において患者のプライベートな問題に触れてしまうこともあります。単に製作者としてだけでなく国家資格を持つ医療人としての良識を深め、技能を高めていくことが必要とされます。

顔貌に生じた先天的、後天的な障害を持つ人は日本に約 100 万人いるとされ、潜在的にエピテーゼやプロテーゼを希望される患者は数多くいます。

歯科技工は失った組織を人工の材料で再建し、機能させることを目的としたオーダーメイドの医療装具を製作する技術です。他診療科医師や医療関係者、またエピテーゼ・プロテーゼを必要とする多くの患者から大きな期待を寄せられています。

国家資格を持つ医療技術者として、歯科技工士によるエピテーゼ・プロテーゼ製作技術の確立と技術者養成が望まれています。

愛知医科大学院では多様化する医療に貢献すべく、令和 3 年 4 月、形成外科にエピテーゼ・プロテーゼ専門の体表面補綴外来と医療用装具の研究・開発を行う研究室の設置がなされました。

森下 裕司 (もりした ゆうじ)



略 歴

- 1981年 東海歯科技工専門学校 卒業
- 1981年 マルミ歯科医院 勤務
- 1984年 愛知医科大学付属病院 歯科・口腔外科 勤務
- 1991年 イェーテボリ大学 ブローネマルククリニック インプラント研修
- 1998年 UCLA メディカルセンター 顎顔面補綴クリニック研修
- 2006年 八州学園大学 卒業
- 2021年 愛知医科大学病院 形成外科勤務

歯科技工士免許 愛知県第2145号 昭和56年4月

愛知医科大学歯科口腔外科研究員

日本歯科技工士会 認定講師 第161号

日本歯科技工学会 専門士 第77号

全技協認定顎顔面補綴認定技工士 12-9号

広島大学 歯学部 口腔保健工学科 客員講師

東洋医療専門学校 歯科技工士科 非常勤講師

東海歯科医療専門学校 非常勤講師

京都歯科医療技術専門学校 非常勤講師

大阪大学 歯科技工専門学校 非常勤講師

富山歯科総合学院 歯科技工士科 非常勤講師

広島歯科技術専門学校 歯科技工士科 非常勤講師

全国歯科技工学校教育協議会 顎顔面補綴士認定コース 講師

所属学会

日本歯科技工学会

日本口腔顎顔面技工学会

インプラント上部構造研究会